

薩摩青雲丸新聞 令和7年度第2次航海 第1号

第5代薩摩青雲丸 内地航海実習スタート!全員元気に過ごしています!!

令和7年9月28日発行 鹿児島水産高校 薩摩青雲丸 指導教官

9月18日に第2次航海乗船実習の出発式が本校体育館において実施されました。実習生を代表し、本科生の黒木孝匡君(川内南中)が「日頃の学習内容を実地で経験し知識の定着に役立てたい。即戦力で貢献できる人材になることを目指したい。」と力強い挨拶を行いました。その後、実習船へ移動し、出港となりました。厳しい残暑の中での出港式となりましたが、ご参加いただいた保護者・来賓の皆様、お見送りいただき誠にありがとうございました。

今航海の実習生は専攻科海洋技術科6名、機関技術科7名、本科2年機関コース6名の計19名が参加します。枕崎出港後、境港、金沢、小樽、仙台に寄港しながら内地航海を実施し、その後マグロ延縄実習を含む遠洋航海に向かいます。当初、初乗船の本科生は船酔いに苦しむ姿も見られましたが、現在は全員克服し実習・課業に積極的に取り組んでいます。約2カ月の航海ですが、全員様々な経験を通して、知識・技術、自立した一人の人間として逞しく生きていく人間力を身に付けることを目標に取り組んでいます。



対面式

枕崎港出港後に生徒教室において対面式を実施しました。乗組員、実習生の自己紹介を行い、相互理解・船内融和の実現が目的です。実習生たちは緊張の面持ちで今航海の意気込みも含めた挨拶を行いました。2カ月に渡って共同生活を行いますので、世代を超えた交流を通して、コミュニケーション能力の醸成に寄与できることと思います。

非常時に備えた操練

対面式後に実習生・乗組員全員を対象とした操練を実施しました。操練の実施は船舶の法律で定められており、定期的に行います。内容は総員退船を想定した救命筏部署、消火放水訓練、持運び式泡消火器訓練でした。実習生は消火放水、泡消火器を実際に噴射し、取り扱いの実際を学びました。始終てきぱきと動き、船乗りに必要な臨機応変に対応できる判断力、チームワークを十分に発揮していました。非常の際こそ冷静沈着な視点・行動力が求められます。今後もこのような資質を十分に身に付け、将来に役立てられることを願います。



航海・機関当直

枕崎港を出港後、本格的な当直業務が開始しました。海洋技術科の生徒は航海計器を活用した見張り業務・操船・気象・海象・航海情報・記録等を行っています。機関技術科は機関室や冷凍機室の監視、データの記録といった業務を行います。本科生は専攻科生のサポートを受けながら頑張っています。また、当直業務以外にも、土官(乗組員)による講義や、船内課題、自主学習に取り組んでいます。全員が進路実現に向けて知識を身に付けようと積極的に頑張っています。

生徒当直日誌より(抜粋)

黒木君9/16: 今日から乗船が始まりました。不安なことや楽しみなことがあります。先輩や先生の指導をいただきながら日々過ごしていきたいです。最後まで気を緩めないように頑張っています。前田君9/19: 今日が初めての当直作業になったが、時間を守りしかりできた。分からないことが沢山あるが、船員さんの説明を受けて理解することができた。南君9/26: 今日は自主研修で兼六園や美術館に行った。上陸中は交通ルールやマナーに気を付けたい。

巡視船見学



金沢港入港中に、隣に停泊している海上保安庁の大型巡視船「のこの船内見学」をご厚意で実施させていただきました。巡視船特有の設備や構造、業務内容の説明を、参加した生徒は興味深そうに聴き、活発な質疑応答がなされました。進路選択の視点でも大変貴重な体験でした。